

令和 7 年度地域活動支援事業審査会 概要

日時：令和 7 年 3 月 9 日（日）

場所：ゆめぼりすセンター 2 階大会議室

【開会】（午前 9 時 45 分）

- ・ 藪中地域連携部長 挨拶
- ・ 倉田委員長 挨拶
- ・ 日程説明

【提案発表】（午前 10 時）

団体名	事業の名称	部門
カルチャーボランティアガイドいがうえの語り部の会	伊賀の歴史・文化の魅力を伝える 新規案内コースの開拓事業	基礎支援
こどもゆめづくり プロジェクト	まちのおしごとが命をまもる災害時 にいきるおしごとフェスタ 2025	基礎支援
NPO 法人 伊賀の伝丸	国籍を超えた地域交流支援事業	協働促進 支援
伊賀市国際交流協会	国籍を超えた地域交流事業 (やさしい日本語でつながろう！)	協働促進 支援

【審査結果発表】（午前 11 時 40 分）

【倉田委員長講評】（午前 11 時 45 分）

本日はありがとうございました。今回 4 団体とも、今後皆様がどのように活動されるのかすごく楽しみにしております。

全体で私が思ったところをまず講評させていただきます。

今回 4 団体に発表していただき、すごく面白い内容だと思って見ていました

し、それぞれ重なる部分があるんじゃないかなと思いました。

まず、このカルチャーボランティアガイドいがうえの語り部の会さんの、関係人口を増やす中で、子供達にも協力をしたいという話もあったり、一方で、こどもゆめづくりプロジェクトさんも、実際子供に関わられていたり、また、防災も今後やっていくという視点もお話をいただきました。

伊賀の伝丸さんも、外国人支援という視点で、伊賀市国際交流協会の方も同様で、それぞれ共通する部分はすごくあると思います。

今回補助金の審査会という形で皆さん集まったということではありますが、せっかくですのでこれを機会に、それぞれ横の繋がりというのを強化していくとすごくいいんじゃないかなと思います。

それぞれの団体にノウハウや、関係されている方であるとか、行政であるとか自治協というのがあると思いますのでそういうところもどんどん共有していきながら、それぞれの団体に固執するのではなくて、知っていることや、知らないことを共有しあって今後も、交流をしていっていただければと思っております。

続いてそれぞれの団体様について講評させていただきます。

カルチャーボランティアガイドいがうえの語り部の会さんに関しては、やはり今後のインバウンドについて、先日ＪＲの列車が伊賀上野駅まで来たりということもありましたが、今後、伊賀上野だけじゃなくて広域的な交流というのも期待できるかなと思っております、ぜひどんどん情報発信をして、関係人口を増やしていき、伊賀上野だけではなく、奈良、京都、三重県全体という形で広げていってもらえばすごく夢があるなと見ておりました。

続いてこどもゆめづくりプロジェクトさんについて、まだ設立から１年ということではありますけど、実際、イベントで、2,000人ほどの方が来ておられるということで、今後、これを継続的に進めていくとさらにこの関係人口も増えると思いますし、今回、防災というのはツールであるというようなお話もありましたけども、ぜひ様々な、今回示していただいた子供達以外の大人も含めて、広く関係する人が増えていけばいいなと今後に期待をしております。

続いてＮＰＯ法人伊賀の伝丸さんですね。こちらに関しては過去の実績や、コロナ禍前にご経験されたことというのを踏まえてお話をいただきましたので、それも踏まえて今後、コロナ禍が明けた後も、一体どういうことができるか試行

錯誤をされていかれるかと思いますが、体制づくりを進めていただければと思います。

最後に伊賀市国際交流協会さんに関しては、実際に5回ほど実践されており、今回、3回事業をやられるということで、内容もブラッシュアップし、2地区を対象にするということですので、今後それをどんどん増やしていった伊賀市全体へ広げていただければと思っています。

最後に私からの全体へのコメントとして、今回は皆さんのスタートだと思っています。

少しうちの大学の話をする、ちょうど今、学生が就活を一生懸命やっております。この学生も、1年生に入ったときってというのは、どんな仕事あったらいいんやろ、何あったらいいんやろ、自分の得意なこと不得意なことはなんやろうというところから始まりました。

それが2年目になって、先生、こういうところ行きたいんや、自分こういうところ苦手やから、こういうところを伸ばしたい、というように変わって、3年目に実際に就活という活動に繋がっていくという3年間なんです。

今回の事業も3年間の補助事業ですので、皆さん進めていく中で、この部分ちょっと苦手だなとか、ちょっとこの部分を改善しないといけないなという部分は絶対出てくると思います。そこで、常に3年間という中だけでなく長期的に見て、今どういうことをしていかなければならないか、という視点が必要なのかなと思っています。

ですので、今回皆さんスタートを切られたということで、今後の活動に期待をし、締めとさせていただきます。ありがとうございました。